

福山大学 大学教育センター 大学教育論叢
第2号(2015年度) 2016年3月発行

「備後に学ぶ地域の課題」報告書

平成 27 年度新規科目「備後に学ぶ地域の課題」 の実施報告

共同利用センター 鶴崎 健一

本学では、地域に貢献できる人材を輩出するために、平成 25 年度から共通教育科目の教養教育科目群として「F 群（地域学）」を設置したが、平成 26 年度までで、実質的に備後地域に関わる授業は「備後地域学」の 1 つのみであった。地域に根ざした大学を目指す本学においては、F 群の充実は重要な課題であったので、福山市との協働で、新しい科目の設置をめざし福山市企画総務局企画政策課と協議を行った。そして、平成 27 年度に「備後に学ぶ地域の課題」という科目が設置された。この科目では、地域の課題などを題材としての PBL（Problem Based Learning：「問題解決型授業」）や各種事業への参加、学外調査などを利用したアクティブ・ラーニングを取り入れた授業を展開することにした。

平成 27 年度の実施概要

開講初年度である平成 27 年度は、福山市環境経済局環境保全課に協力いただき、芦田川をテーマにした授業を展開した（参考資料 1・参考資料 2）。講師として、福山市環境経済局環境保全課から清水直樹課長を派遣いただいた。平成 27 年度の本講義は、清水直樹氏と鶴崎で企画し、実施した。

平成 27 年度の受講生は、7 名（自由聴講 1 名を含む）であった。

初回の講義は、鶴崎が本授業の目的や授業展開の方法を説明し、講師の清水直樹氏には、芦田川の現状などの概要を説明いただいた。10 月 3 日には、福山市が企画するふくやま環境大学の芦田川見学ツアーに参加した。8 時 30 分福山駅に集合し、ツアーバス内で芦田川の現状などの概要の説明を受け、福山市の水瓶となっている八田原ダムの見学を行った（写真 1）。昼食後、中津原浄水場へ移動し、浄水施設の見学、利き水を行った。その後、芦田川見る視る館に行き、河川の浄化施設の見学、簡易水質検査の実習を行った（写真 2）。16 時に福山駅に戻り、解散した。

講義やグループワークは、7 号館 2 階プロジェクトラウンジを中心に行った。芦田川見学ツアー後の授業では、学生に 2 つのグループ（「芦田川を紹介し隊」と「ASD」）に分かれて企画を検討してもらい（写真 3）、企画書を作成（写真 4）した。その後の授業では、講師の指導を受けながら、各グループで企画書の内容に従いながら、成果物の作成を行った（写真 5）。そして、作成した成果物について、最終回に発表を行った（写真 6）。「芦田川を紹介し隊」は、パンフレット「芦田川ってこんな川」（写真 7）、「ASD」は、ホームページ「そうだ、芦田川に行こう」（写真 8）をそれぞれ成果物として報告した。

講義終了後には、Cerezo を通じて、レポート課題、授業アンケートを行った。また、ルーブリックを利用して学生同士の評価も行ってもらった。



写真 1 八田原ダムで説明を聞く様子



写真 2 芦田川見る視る館での水質検査の様子



写真 3 企画を検討している様子

平成 27 年度の成果・課題について

受講者数について

平成 27 年度の受講生は 7 名と少なかったが、グループワークを行う授業のため、初回である本年度については、指導しやすい人数ではあった。しかしながら、成果物の精度やグループ間での議論などを考えると、3 グループ（1 グループ 4～5 名）程度の受講者がいることが望ましいと思われた。

受講者数が少なかった原因として、開講初年で学生への周知が不十分であったということ、1 単位科目であったということが一因と考えられる。一方、担当の鶴崎へ受講に関する問い合わせは数件あり、もう少し多くの学生が受講を考えていた様子がある。また、問い合わせに来た学生の中には、本科目の重要な要素である芦田川見学ツアーに、クラブ活動やアルバイトのため参加できないことが発覚し、受講を諦めた学生が複数いた。今回は、芦田川見学ツアーの日程の決定が 4 月以降であり、シラバス掲載時期に間に合わず、周知が 7 月以降になってしまった。そのことが学生に受講することを躊躇させてしまった可能性がある。この点については、平成 28 年度には改善し、福山市にツアーの日程の決定を前倒ししていただき、シラバスに日程を掲載することにした。

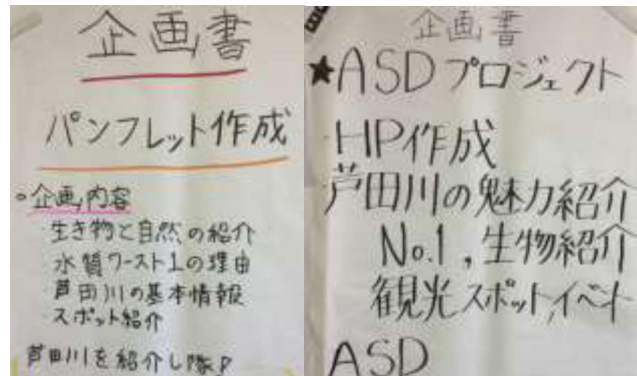


写真 4 企画書（最下段にグループ名を記載）



写真 5 成果物作成の様子

成果物の作成・発表について

成果物については、学生自身が目標としていた内容には届かなかったようである。企画から発表までの期間が 1 カ月程度しなかく、さらに、大学祭が間に実施されたこともあって、時間的に厳しかったことも一因である。学生からも、時間が足りなかったとの指摘があった（参考資料 3）。しかしながら、我々が期待していた Cerezo のプロジェクト機能を利用した情報交換などがほとんど行われておらず、各自が準備してきたものを授業時間中にまとめるというやり方になっており、有効な時間の使い方ができていなかったようだ。学生間のコミュニケーションをスムーズにするために、授業の前半部分ではアイスブレイクの時間も取り、また、Cerezo の利用を促す工夫も行ったのだが、まだまだ改善の余地があると思われる。

また、今回は学生の自主性を重んじ、企画段階では内容に関する指導は行わなかった。その結果、両グループとも企画そのものが非常に幅の広いものになってしまい、收拾がつかなくなり、消化不良を起こしてしまったようだ。後半の授業の中で、テーマを少し絞るように誘導も行ったが、うまく修正できなかった。次年度も同じ芦田川をテーマとして扱うが、企画段階でポイントを絞るように誘導する工夫をしたいと考えている。

発表については、両グループとも成果物の内容を適切に伝えることができ、非常に良いものになった。質疑の時間においても、前半の授業では、あまり発言できなかった学生も積極的に議論に参加する様子が見られた。この傾向は、成果物の作成の段階から徐々にみられるようになっており、共同作業における積極性やコミュニケーション能力の向上に本講義が重要な役割を果たしたと思われる。来年度以降も同様の姿がみられることを期待したいので、一層の指導の工夫を行いたい。



写真 6 発表会の様子

学生の授業評価

学生の本講義の満足度は、概ね良好であった（満足 1 名・ほぼ満足 4 名・どちらとも言えない 2 名）。満足度が低めの学生は、成果物作成の時間が不足していた点をあげていた。これについては、上述のように、学生自身で成果物を作り上げていくことに慣れていないため、授業時間以外のところで学生間のコミュニケーションが不足している、結果として十分な成果物ができなかったということになるであろう。授業の狙いとしては、授業時間以外をいかに使ってもらうかが重要でそのことを講義の中でも適宜指導したのだが、さらに工夫が必要であろう。

授業の適切性については、「比較的、簡単であった」が 1 名、「適切であった」が 5 名、「比較的、難しかった」が 1 名であり、学生にとって適切と思える内容であったと考えられる。

また、学生の感想（参考資料 3）には、芦田川に関する知識が習得できただけでなく、グループワークでの積極性、主体性がいかに重要かを理解できたとの記載もあった。この点については、本講義の到達目標が達成できたと思う。

また、今回受講した学生に、「平成 28 年度に今回の経験を生かして手伝いをしてもらえるか」について質問したところ、「他の授業と重複しなければ是非したい」が 3 名、「条件によってはしても良い」が 1 名と、積極的に参加を希望する学生が多くいた。これも、学生の積極性を引き出すことに成功した結果と言え、本講義の成果と言えるであろう。

平成 27 年度は本講義の初年度であり、また、福山市との協働での授業展開ということもあり、授業計画段階から不安を抱えていた。しかしながら、清水直樹氏の献身的なご協力によって、無事に授業を展開することができ、上述のような成果を得ることができた。

平成 28 年度も、福山市環境経済局環境保全課と協働して実施する予定である。本年度の貴重な経験を活かして、より充実した授業内容を目指し、学生の地域貢献の意識を高める一助となるようにしたい。

芦田川ってこんな川！



制作：芦田川を紹介し隊！

図 7 パンフレット「芦田川ってこんな川！」
(グループ名：芦田川を紹介し隊)

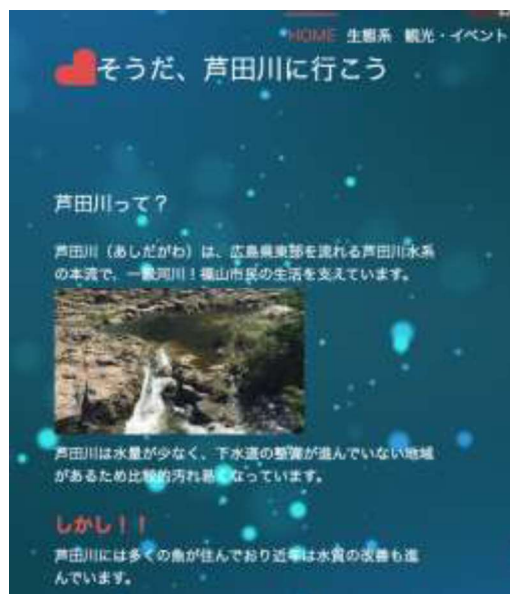


図 8 ホームページ「そうだ芦田川に行こう」
(グループ名：ASD)

(参考資料1) 初年度のシラバス

講義名	備後に学ぶ地域の課題		
開講期・曜日・時限	後期・水曜・5時限 他	単位数	1単位
授業のねらい、概要	備後地域の様々な課題を題材に、学外調査やグループワークなどを行なうことで地域社会への貢献のあり方を考えていきます。本年度は、福山市経済環境局環境部環境保全課の協力のもとに、福山市を流れる芦田川について考えます。福山市では芦田川の水質について、報道等でワーストワンというイメージ先行で取り上げられているため、芦田川本来の良さが伝わっていないという問題を抱えていますので、そのイメージを払拭するために以下の案のような施策（アイデア）を考えます。 案1 芦田川をテーマとしたガイドブックを企画する（例：るるぶ芦田川） 案2 芦田川をテーマとした小学生向け授業（実験、観察）の（指導案）を作成する 案3 芦田川をテーマとしたイベントを企画する		
授業（学習）の到達目標	地域を育み、地域に貢献する精神を身に付けることを目指します。グループワークや学外活動を通じて、コミュニケーション能力を身につけることを目指します。		
準備学習等の指示	本学の教員だけではなく、福山市職員に授業をお願いしています。今年度は、芦田川がテーマとなりますので、福山市ホームページなどで芦田川について事前に調べて下さい。講義だけでなく、グループワークがあるので、欠席しないように。		
成績評価の方法・基準	グループワークでの発表などの授業態度（2割程度）、レポート（4割程度）、グループ課題の成果物（4割程度）で、総合的に評価します。		

(参考資料2) 各回の授業内容

授業回	授業内容
第1回 9月30日	ガイダンス（本講義の目的・進め方などの説明） 福山市を流れる芦田川の現状について 課題の説明・グループ分け・自己紹介・課題の整理・行事参加の分担
第2～4回 10月3日	ふくやま環境大学（芦田川～水の旅～） 八田原ダムから河口まで・水のゆくえ・芦田川の生物
第5回 10月7日	芦田川のイメージアップのための施策を考える1 ふくやま環境大学での知識の整理・課題の洗い出し・課題解決方法の検討
第6回 10月14日	芦田川のイメージアップのための施策を考える2：成果物の構想 施策の具体的な検討・成果物の作成
第7回 10月28日	芦田川のイメージアップのための施策を考える3：成果物の作成 施策の具体的な検討・成果物の作成
第8回 11月4日	芦田川のイメージアップのための施策を考える4：成果発表と討論 グループ発表・ふりかえり・理解度チェックテスト・レポート課題説明

(参考資料3) 学生の感想、意見

芦田川ツアーがとっても楽しかったので、またこういう機会があれば行きたいなと思いました！
芦田川について、詳しく学べたこととグループワークでの積極性、主体性がいかに重要なものか知ることができた。今後やっていくうえで、役に立つのではないかなと思う。
成果物の発表の時に、発表自体が滞ってしまい長引いてしまったので発表前に成果物をひとつにまとめてどのように発表していくかを話し合う時間が1コマ欲しいと思った。
講義の時間が短かった。もう少し長くやってほしかった。講義としてはとても面白かった。
課題作成の時間があまり取れず満足いくものが作れなかったため、課題作成の時間に余裕を持たせるか、課題の内容の改善をして欲しい。
今回地域学の授業を受けたことにより、地域に興味を持ち知ることの大切さをフィールドワークを通して身をもって感じた。それは地域社会に生きる者としての重要な責任であるが、なかなか学ぶ場がない。福山は自分の地元ではないものの、今回の授業学べた社会や地域での生き方はこれからどこに行っても通用すると思うし、何より地域の成り立ちを学ぶことがとても楽しかったので、ぜひ多くの人に履修してもらえたらと思う。授業内では課題としてHPやパンフレットを作成したが、その完成度は十分に目標を達成できたものとは言えなかったかもしれない。週に一回の授業からさらに内容の濃いものにするにはどうすればよいか課題だと感じた。また今回は市の河川がテーマだったが、他のテーマに関しても多く知りたいと思ったので、自分で情報を探してみたいと思った。加えて、今回は福山市役所でお仕事をされている方に講師をしていただいて、芦田川以外にも、コミュニケーションの仕方や、仕事についてなどのお話が聞けたので、それがとても勉強になった。いろいろな立場の人から話を聞ける機会がたくさんあるといいと思った。このような授業が多く展開されればと思う。
芦田川に詳しくなれたのでよかったです